

学校関係者評価委員会 議事録

開催日時：令和7年5月27日（金）13:30～

開催場所：日本総合医療専門学校 校長室

開会宣言：事務局 工藤

委員名簿：(1) 関連業界等関係者 5名

株式会社セリアジョブ 代表取締役 黒澤光伸様

全国柔整鍼灸協同組合 東京事務所 所長 塚口英治様

MTX ACADEMY 統括ディレクター 木村匡宏様

株式会社 GBS メディカル 代表取締役 神田大輔様

治療室“ユーカリの木” 代表 栗林由美子様

(2) 卒業生 2名

日本総合医療専門学校 広報課課長 富岡正享様

日本総合医療専門学校 柔道整復学科教員 小林耕平様

(3) 教育に関し知見を有する者 1名

ガリバーインターナショナル株式会社 平賀修司様

事務局：日本総合医療専門学校 校長 齋藤貴司

同校 教務部長 大野政明

同校 事務長 工藤雄大

同校 調査役 増子肇

本日はご多忙中、本委員会のためにご足労頂きありがとうございます。

本年4/1に前任の増子職員より、事務長の職責を引き継ぎました工藤でございます。

本日、若輩ではございますが、事務局として、議事の進行を務めます。

お聞き苦しいところがあるかと存じますが、よろしくお願いいたします。

さて、議事に入ります前に、若干ではございますが、配布資料の確認と、制度の本会議の趣旨と制度について、ご説明いたしたいと思います。

提示資料確認

一.学校法人平成医療学園「建学理念」

日本総合医療専門学校 「教育理念」「教育目標・育成人材像」

- 一.令和 6 年度「日本総合医療専門学校自己点検・評価」
- 一.令和 6 年度「柔道整復師養成施設自己点検票」
- 一.令和 6 年度「はり師、きゅう師養成施設自己点検票」
- 一.日本総合医療専門学校「学則」令和 8 年 4 月 1 日施行予定
現行「学則」令和 7 年 4 月 1 日施行

I. 学校長挨拶

今日は、平成医療学園全体の広報会議が開催されております。理事長、各理事も参加されております。各専門学校からは代表の校長が来校して会議を行っておりますので会場がせまく申し訳ございません。各校厳しい状況になっており改善のための会議を行っております。鍼灸学科も今年度完成年度になりましたので中央医療専門学校鍼灸学科ご卒業の治療室“ユーカリの木” 代表 栗林由美子様に新たな委員になっていただいておりますのでご報告と紹介させていただきます。本日はご都合により欠席となっております。増子職員が定年退職となり新しい事務長の工藤になりましたので宜しくお願いいたします。本日は、各先生方に、忌憚のないご意見を受け賜わりたく宜しくお願いいたします。

II. 各委員のご紹介

III. 審議事項

1. 日本総合医療専門学校自己点検・評価について(上程者：工藤) 以下説明

平成 19 年に学校教育法の改正に伴い、専修学校においても、「評価を通じた組織的・継続的な教育活動等の改善」「生徒・卒業生、関係業界等の地域のステークホルダーとの連携協力による特色ある専修学校づくり推進」する目的で、学校評価とその活用が求められるようになりました。

学校評価には、自己評価、学校関係者評価、第三者評価の三つの手法があり、ただいまお集まりいただいている会は、二つ目の学校関係者評価にあたります。お集まりいただいたみなさまには、本校の自己評価の結果を踏まえて、本校の運営や教育活動などに忌憚のないご意見を頂戴し、本校の今後を考える際の参考とさせていただきたいと考えております。

それでは議題の説明に移りたいと思います。

お手元の令和 6 年 日本総合医療専門学校自己点検・評価をご覧ください。

まず、大項目 1.教育理念、目的、育成人物像です。

これにつきましては、教育理念、教育目標などに大きな変更はなく、従来通り「適切」に運

営されていると考えております。特にお伝えしたい事柄は、変化の激しい社会に 1-3「社会のニーズ等を踏まえた将来構想」に関してです。

本校では、来年 4/1 に、校名変更と新学科設置を企図し、東京都に申請中です。

校名は、東京平成医療ビジネス専門学校、

新学科は、2 年生の商業実務分野の専門課程の設置を予定しております。

続きまして、大項目 2.学校運営です。

これについては概ね順調ということで、「やや適切」という評価となっております。

本年 4/1 からの中期計画、学費値上げに関してご説明します。

本校の運営母体である学校法人平成医療学園が策定した中期計画に基づき、「基本金組入前収支差額をプラスにする」ことを求められていますが、鍼灸学科の募集不調や諸物価の高騰もあり、計画達成には至っていません。

そのため、やむなく本年より授業料を、従来の 80 万円から 90 万円に値上げしております。

依然として、収支は苦しい状況ですが、法人の財政的支援を受けながら、値上げに見合う教育内容となるように適切な運営を心がけております。

大項目「3.教育活動」についてです。3-2-2「教育課程編成委員会」についてです。後ほど、教務部長の大野より補足があると思いますが、本校では現在、カリキュラム編成委員会を設置して、カリキュラムの改革に着手しております。これにあたり、本来は外部の有識者、実務家から意見をいただくことが望ましいのですが、まだその段階には至っておりません。そのため、従来「適切」としておりましたものを、「やや適切」としております。

また、3-4-1「国家試験」については、第 33 回柔道整復師国家試験の新卒合格率の全国平均は 75.9%であるのに対して、本校の合格率はそれを下回る 60.9%でした。模試等を活用し合否ボーダーラインにいる学生を早くに抽出して、課外授業などを活用して対策することで令和 7 年度は目標達成の見通しです。また、学生サポート委員会に加えて、課外ゼミなどで学習面の不安や、学習意欲に課題のある学生を支援する体制を構築しておりますので、これも改善に寄与すると思われます。

3-5-1「教員」についてですが、鍼灸学科に新しい教員が入り、6 名となりました。学科創設 3 年目にして、養成施設設置基準が求める定員を満たしたことになります。

つづいて「4.学修成果」ですが、先ほど申し上げたように国家試験合格率が大きく低下しましたので、4-1-3「試験合格率」は、「やや不適切」としております。一方、4-2 就職については順調であり、概ね 100%の就職を実現できております。また、4-4「特色ある取り組み」として、課外ゼミ、八丈島合宿、球技大会などを実施し、ここ数年で一気に充実させることができています。まだまだ、これからというところもありますが、期待していただいて良い

部分かと思います。

「5.学生支援」ですが、昨今、学修だけではなく、生活面、経済面、健康面で課題を抱える学生が増えております。国の高等教育の修学支援新制度もあり、経済的課題を抱える学生への支援は充実しつつありますが、一方で、健康面、とくにメンタルの不調には十分な体制がとれておりません。5-2を「適切」から「やや適切」としたのは、そのような課題感を反映したものです。今後、学生サポート委員会などでのチームワーク向上とともに、非常勤校医の採用などで相談体制を強化していきたいと考えています。

「6.教育環境」ですが、施設の老朽化は隠しがたい状況となっています。空調、水道、共用部の照明、防災対応など多くの課題がありますが、限られた学納金収入でこれに対応していくには限界があります。今後、法人からの支援を受けながら、危険個所の除去を進めていきたいと考えています。

「7.学生募集」については、すでにお話しした通り、設置間もない鍼灸学科で苦勞しています。柔整鍼灸合わせて、180名の定員に対して、110名弱となっています。定員充足率6割を若干割り込んでいます。一方で、入試などでは、才能とやる気のある学生にアプローチするため、様々な工夫を行っています。入試は単なる学生選考の手段ではなく、学生や保護者とのコミュニケーション手段です。課題提出や面接などで評価するアドミッションズオフィス型の入試を実施しています。

「8.財務」については、学校法人平成医療学園のHPで令和5年の決算を公開しております。夏ごろには、令和6年のものも開示されます。令和5年の決算の数字ですが、事業活動収入計7,757,947,422円、事業活動支出計7,498,129,705円となっており、77億の収入に対して、75億の支出となっております。

「9.内部品質保証」については、法令遵守はもちろんのこと、学校関係者会議の場をさらに充実させ、委員のみなさまからの意見を本校の運営に反映させていくことで、さらなる充実が図れると考えており、概ね「適切」「やや適切」としました。委員の皆様にはお力添えをいただきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

最後となりますが、「10.社会貢献・地域貢献」についてです。本校では、従前より学生教員が地域消防団に参加して、地域防災に貢献してまいりました。これに加えて、令和6年度は荒川区からの委託を受けて、地域向けの生涯学習講座を開催しました。大野教務部長の尽力によって教務部門と広報部門が協力して、充実した講座実施を行った結果、のべで100名以上の参加者があり地域の以外なニーズに貢献できた活動となっています。一回の開催で

30 名以上の応募もあった。今後も、小さい学校ではありますが、地域・社会に貢献する活動を進めてまいります。

以上、事務局よりの報告となります。

以後、委員の方からのご質問やご意見など承りたいと思いますが、齋藤校長、大野部長より補足などありましたら、お願いいたします。

齋藤（校長）

概ね報告内容どおりと思われる。

社会貢献については、点数をあげてもいいのではないかとと思われる。特に、委員の小林先生が荒川区の柔道整復業界と連動して対応されたトリアージ訓練を実施したこと(昨年 1 年生を対象に実施した)および転倒防止体操を継続してやっていること

荒川区は健康都市でもあるのでもう少しこのような活動を継続しアピールしていきたい。

一番の課題は、学生募集(定員充足)につきます。これがクリアすると次の段階がみえてくると思っている。学校のルールブックはできあがっており、コンプライアンスは問題ないと思われる。広報会議をみていると、打ち出し方がうまくできていない。自信をもって打ち出せばいいと思いますがその辺が課題であると思っています。

今年度の広報活動の主旨は、どこで学ぶかではなく誰から学ぶか。をクローズアップします。

「この先生と学びたい」という先生の教育をもう一度していく。

お互いをもっと知る意味でのアンケートをとっている。個々紹介。これを共有化し、高校訪問に持ち込み、オープンキャンパスで利用して打ち出していく。

それが柔道整復、鍼灸の興味につながっていく環境づくりを行っています。

集めるのは人、集めていただくのも人である。

「人」というキーワードを大切にしていきたい。「3つの愛」

この課題、方針をやりぬけるかどうかは課題である。

大野（教務部長）

教育課程について

現在は学則に添付されている形式的な部分(時間数等)を合わせる初期段階の検討している。

その後、形が決まり授業内容を変更していく際には、授業のより細かい内容について、

現場の先生方の意見を反映できた方がいいと思っております。

生涯学習講座について

荒川区で東洋医学に関する講座を開催。どれだけ東洋医学に関心を持っている方がいるのかを知るために講座をやりはじめてところ希望者 100 名以上集まった。参加者に健康に興味をもっている方が多いことがわかったものの、掘り下げて聞いたところ、実際のところ情報量が多すぎて柔道整復、鍼灸について正確に理解できていないということがわかった。当

校の認知度を含め世間の方が柔道整復や鍼灸の内容を認識されていないことがわかった。これらのことを考え、柔道整復の内容、鍼灸の内容を高校生に正確に啓蒙してことが学校の役目であるということが理解できた。このような状況であるということを関係者の方々の共有の理解としたい。

塚口委員（全柔協）

大野先生の意見はごもっともであると思う。実現していくのが難しい。

結論にかぶる内容が多いと思いますが、

まず、柔道整復師、鍼灸師であることの魅力を伝えることから始まると思う。

あんなことをやっている人はカッコいいなと思えるきっかけ体験づくりができればいいと思う。学校に入る前の高校生や、できればもう少し早い段階から感じてもらいたい。

ボランティア活動は大変だと思いますが、徐々に効果がでてくると思います。

ひとつは地域貢献ですが、メインは広報です。

区の大きな運動会 2 万人程度が参加される。そこでストレッチの指導を行っています。

多くは高齢者が並ばれるが、運動会自体は、実際に楽しんでいるのは小中学生。

小中学生に対してアプローチ(宣伝)していきませんか。学校と一緒に行っていきたい。

学生に興味をもってもらうために、組合員に入ってもらうための学生向けの講習会を実施していく予定。プロ野球のチームドクターをしている整形外科の医師に柔道整復師意図は、学生に興味をもらうことが主です。学校と連携を取らせていただきたい。

齋藤（校長）

職業教育をしっかりと教えるのは専門学校の使命と思う。それは、授業で展開するが、土日休みの動員を増やしていこうと考えています。やれば面白いが腰が重い。というなかで、きちんとお膳立てしてあげて課題をあげていく必要があります。

また、柔道整復師、鍼灸師の活躍の場を広げるという意味では、

横浜市立みなと総合高校で 3 年生の授業をやっている。

森先生が、柔道整復師として「探求の授業」に教壇にたっている。

看護師希望の学生 3 名と部活の先生が 6 名程度授業をうけている状況である

引き続き、このようなこともできるという活動をもり立てていきたい。

神田委員（GBS）

高校を訪問すると多くの学校がどこも同じに見える。特に若い人は目が慣れている。

当校の HP の写真に写る先生の写真もあまりパーソナリティがでていないように見受けられる。自分の会社の HP、パンフレットの撮影には、お金はかかるが、プロに依頼している。

もし「人」に集中させるのであれば先生の写真ひとつにしてもプロに依頼されパーソナリティをクローズアップされたほうがよろしいかと思っています。

鍼灸師が3名と柔道整復師が3名入社した。

全国的にみて学力の低下が見受けられる。文字が読めない、書けない。言葉を知らない。

やっていかないと患者様に対応できない。

全国の学校をまわってみてみると、学校の理念であるとか、医療者であるということを教えられていない。やっていなしし、ほとんど知らない。言葉をぐだいて説明してあげる。繰り返し教えないと試験対策だけさせても身がはいらない応用ができないのではないかと思います。波長をあわせること、文字をきちんと読むことができないと現場にたたせてもらえなかった。そちらの方が教育につながるのではないかと思います。

齋藤（校長）

素読「そどく」本を声を出して読む。担任の先生に提案し授業で行おうと思っています。合格率が悪いのも、問題をきちんと読んでいないのではないかと思います。国家試験問題も長文が増えてきている。

平賀委員（ガリバー）

宝塚医療大学留学生別科のてこ入れをしている。

今年度からは、宝塚医療大学に専念しています。

留学生別科で東京 1000 名大阪なんば 400 名の留学生に対して日本語教育を実施し内部進学を目指しています。日本総合の国際ビジネス学科に内部進学で協力したいと思っています。

黒澤委員（セリアジョブ）

募集状況について

募集に関しては地域性があると思われる。

柔道整復に関してはどの学校も苦戦されているものの、首都圏に関しては、鍼灸に関しては比較的定員充足されている学校が多い。お茶の水鍼灸は集まっている。日本総合はどのように行われているか確認したい。

合格率について

クローズアップされている。学力低下がいなめない。合格率アップについてどのような対策をとられているか確認したい。

齋藤（校長）

学生募集について：広報のメンバーの入替えを検討している。

鍼灸については、令和7年度で完成年度になりましたので給付金の申請を行う予定です。

これから特色のある選考ができると思う。

柔道整復に関しても、以前の申請の失敗の影響が高校の先生の中にまだ残っている状況が

あるためその過去の払拭もなくなってくると思う。

国家試験に対する対応について：個別指導を徹底して行っている。

大野（教務部長）

できる学生とそうでない学生との層が激しくなっている。自己管理できますか。というレベルまで低下している。個別指導を行い全体の底上げを目指している。

自己管理、人間指導の徹底、底上げが大事だ

小林委員（教員）

学習計画表を作らせてそれに基づきその進捗を確認しながら指導している。

勉強が遅れている学生に対しては、学校に残し指導している状況である。

以前は学生が学生に指導するという環境ができていたが、現在は、3年生はその傾向がのこっているもののその他の学年はほとんど見受けられない。

閉会宣言：事務局工藤：

本校自己評価に基づき各委員の皆様より、其々のお立場で、ご意見ご評価を頂き本校運営に関し更に課題を見出すことができました。

尚、本会の評価を基に学校関係者による評価結果をまとめご報告申し上げます。

本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございました。